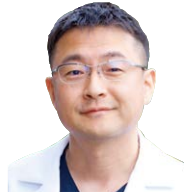


泌尿器講座

排尿障害の原因薬剤

いいい腎泌尿器科クリニック院長
石井 達矢

●(いいい)たつや)1999年(平成11年)山形大学医学部卒業。同大附属病院、市立病院済生館、公立圏域総合病院勤務などを経て2020年5月いいい腎泌尿器科クリニックを開業。医学博士、日本泌尿器科学会認定専門医、日本医師会認定産業医。



抗コリン薬

「抗コリン薬」は副交感神経の作用をブロックする薬剤で、副作用として膀胱排尿筋の収縮力を低下させ、排尿障害の原因になります。

抗コリン薬を含む薬剤は、過活動膀胱薬や胃腸薬、抗不安薬、睡眠薬、抗うつ薬、一部の抗パーキンソン病薬など多岐に及んでいます。

α受容体刺激薬

血圧が低い方や立ちくらみがひどい方に処方する「α受容体刺激薬」は、尿道の抵抗を高め、排尿障害の原因になります。

す。前立腺肥大症で排尿がしづらい方に処方する「α1受容体阻害薬」の逆の機序になります。

一部の漢方薬

風邪や肩こりに処方される漢方薬で、葛根湯など「麻黄」という成分が入っているタイプも、交感神経を刺激し、尿道平滑筋の緊張を高めることで尿道抵抗が上昇し、排尿障害の原因になります。

出ずらさを感じたら

このように、薬剤性排尿障害を引き起こすお薬は実に多いことがお判りでしょう。

新しいお薬の服用を始めて尿の出ずらさを感じた場合は、そのお薬が排尿障害の原因なのかどうかをわかりつけの薬剤師さんや主治医に相談されることをお勧めします。



〈泌尿器科・内科〉

いいい腎泌尿器科クリニック

☎023-616-3601 山形市桜田西4-17-49

●診療時間
午前/9時00分～12時30分
午後/14時30分～18時00分

●休診日
木曜午後・土曜午後・日曜・祝祭日

